令和4年度　高志高等学校　学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
自ら学ぶ生徒を育てる	・生徒自らが問いや課題を設定しながら学びを進める過程を通し、主体的・対話的で深い学びを実現する。	・家庭学習に対する生徒の意識は目標指標を上回っているが、昨年度と比べると、取り組みの状態がやや低下している。 ・良好な家庭学習の習慣が身に付いていると感じている保護者は、昨年とほぼ同じ約8割である。	・家庭学習時間調査や面談等を充実させ、生徒の学習習慣の一層の定着を図る。また課題の内容・与え方について生徒の意欲の喚起を意識する。
		・9割程度の生徒・教員が、深く考える授業を実施していると意識している。特に教員では、昨年度から5％近く増えている。	・現在の授業改善の取組を継続していくとともに、新学習指導要領や新傾向の大学入試等も念頭に置き、主体的な学びに関して校内研修会を開催し、指導法の共有や検討等、更なる授業研究を継続していく。
	・探究創造科にふさわしい授業づくりや学習指導計画の作成に取り組む。	・教育課程や中高一貫教育課関わる学校への取り組みについて、85％の保護者が満足しているが、5％程低下した。 ・教員の探究創造科への対応は、検討が進んでいるとの回答は6割強に留まった。	・今後も、本校の中高一貫教育についての検討を中高の教員で更に進めていく。 ・教科会や校内研修会で、SSHの取り組みの経験を取り入れながら、探究創造科にふさわしい授業や学習指導計画について、検討を継続していく。
	・SSH・SGHネットワークの取組（課題研究・各種研修・講演会・コンテスト等参加等）により、生徒の探究力や課題解決能力を高める。	・コロナ禍によって活動が制限された部分もあったが、教職員、生徒、保護者のいずれにおいても数値目標を達成した。 ・探究学習に関する教員研修会、チェックリストや評価ルーブリックを活用した課題研究の指導の徹底、KoA-L Mapを活用した探究的学習活動の充実等の成果が現れたものと思われる。 ・課題としては、コロナ感染状況の影響で、特に海外の交流校との活動等が停滞したままであった。	・全教職員が探究学習や課題解決能力育成に携わっているという意識を更に高めるよう、引き続き、教員研修や各教科との連携を充実させていく。 ・生徒に対して、探究活動の意義を機会あるごとに伝え、活動へ取り組む意欲・態度を高めるようにする。また、探究に関する各種コンテストやイベント、学会等へ積極的に参加するよう、引き続き生徒に呼びかける。 ・停滞している海外との交流活動を、リモートを活用するなどして活発化させていく。
自ら考え責任を持って行動する生徒を育てる	・ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事等において、生徒が主体的に活動できる場を提供する。	・教職員が、「リーダーとしての人材を育成することができた」と回答したのは，昨年とほぼ同値であるが、目標指数の90％にはわずかに達しなかった。 ・生徒全員が参加するホームルーム活動・学校祭には約95％の生徒が、生徒の参加が任意の生徒会活動・部活動では約85％の生徒が「積極的に取り組んでいる」と回答している。また、約90％以上の保護者が、これらの活動に「子どもが積極的に取り組んでいる」と回答しており、生徒と保護者の意識がほぼ一致した結果となった。	・学校祭等の学校行事や部活動の場面においても、リーダーとしての人材を育成することができるよう、全教職員の生徒への関わりを深める。 ・ホームルーム活動・生徒会活動・学校祭行事等では、生徒が主体となった話し合い等を積極的に行わせる（例：ホームルーム、生徒代議員会、生徒会執行部）。また、それらの活動の中で生徒が提案した事柄に対しては、生徒と教職員間の意見交換等を十分に行った上で、生徒の提案が実現できるよう取り組ませ、生徒の主体的に取り組む姿勢、リーダーとしての資質を育成する。
生徒の夢・希望の実現を支援する	生徒自身が興味・関心を把握し、掘り下げることで、進路目標を明らかにし、進路目標実現に向けて努力を続けるための支援を行う。	・教職員、特にクラス担任は、生徒一人ひとりを理解し、適切で高い進路目標を持たせることができたと回答している。ただし、一人ひとりがより高い進路目標を持ち、その実現に向けて学習に取り組む、と回答している生徒は74.8%と低い（昨年72%）。	・大学の先生を招聘し、研究者から直接大学の紹介や大学での研究について話を聞く機会をもつことで、生徒自身の進路に関する意識を高める。 ・大学が実施する公開講座やオープンキャンパスへの参加が可能となったこともあり、生徒が進路についての情報を得る機会が少しずつ増えてきている。今後もこれらに積極的に参加するよう生徒に働きかける。 ・GoogleClassroomを活用した情報提供や、生徒がどこを見れば情報を得られるかの情宣も行う。
		・進路選択に関する行事等が参考になったと回答した3年生は93.9%であったが、1、2年生では90%を下回った。	・各学年が行っている進路学習を、高校3年間のキャリア教育全体計画の中に位置づけ、3年間を見通した体系的な進路支援に努める。

	・各教科担当者が、大学入試問題、大学入試改革等の研究と分析を通して、生徒一人ひとりの進路目標に合わせ、目標実現に必要な学力向上のための支援を行う。	・5教科のほとんどの教員が共通テストの問題分析を行っている。 ・5教科の全教員が模試の見直しを行っている。 ・難関大および地元大の個別試験分析を行った教員の割合が84.6%と目標値を下回った。 ・模試実施後の見直しを行っている生徒の割合1、2年生では74.6%と80%を下回った。3年生は97.3%とほとんどの生徒が見直しを行っている。	・今後も共通テストの問題分析を全ての教員が引き続き行っていく。 ・個別試験の分析をさらに進め、普段の授業、考査、課外での指導に反映させる。 ・予備校等が開催する入試問題検討会等へより多くの教員が参加する。 ・模擬試験の見直しを更に強くはたらきかけ、模擬試験受験の効果を最大化できるよう努める。
豊かな情操の涵養	・朝読書週間、図書館講座、ビブリオバトル等の行事や掲示物、広報紙等の発行を通して読書意欲を喚起し、図書館利用および読書量の増加を図る。	・読書意欲を喚起するため教職員が読書の意義や楽しさについて指導するが65.4%で目標の70%を下回った。 ・図書の広報活動に対する生徒の理解は39.3%で、目標の50%を下回った。 ・年間貸出数は3073冊（R4.12月現在）で、年度末には目標の3500冊を超えることが見込まれる。 ・図書館に3回以上来館した生徒は49.0%で、目標の50%を下回った。図書館常駐の教職員数が減少したことが影響した可能性もある。	・「図書館だより」の毎月発行を継続することで、図書館からの広報活動内容の認知度を向上するとともに、配付する際に図書委員が紹介することで、図書の広報活動に対する生徒の理解を深める。 ・図書委員会の活動として作成している掲示物が魅力あるものとなるよう工夫していく。 ・ブックハンティングや本のリクエストの実施を継続することで生徒が希望する書籍を把握し、来館生徒数、年間貸出数ともに増加するような選書を心がける。 ・今後も、KoAを中心に各教科・科目の授業で活用できるよう環境を整える。
安心して学べる環境	・相談環境を整備し、カウンセリング等をいつでも受けることができるようにする	・教職員による生徒への健康管理に対する必要な働きかけは98.1%で目標を達成した。 ・生徒が、健康な生活に必要な行動がとれるように取り組んだ割合は88.8%で目標を達成できなかった。 ・保護者の、96.7%が病気やけがへの必要な対応が行き届いていると評価し、目標を達成した。	・職員会議等の機会を捉えて、職員全体に対し共通理解を図り、全教員が生徒への指導・支援を行う。 ・消毒液の設置や教室・廊下等への掲示物等で啓発活動を行い、感染症予防への意識が高まるように働きかける。 ・保健委員による見回り活動や放送連絡等での啓発を通し、生徒が主体的に感染症予防への意識が高める。
		・教職員による悩みを持つ生徒への対応について、学校全体で取り組んだ割合が92.6%で、目標を達成した。 ・生徒が、悩みを相談できる人がいる割合は93%で、目標を達成した。 ・保護者の、92.1%が悩みを抱えている生徒への取組みについて評価し、目標を達成した。	・気がかりな生徒の対応を引き続き行う。 ・スクールカウンセラーや外部機関との連携を強化するなど、相談活動をより活性化する。 ・学校全体で支援していく体制を整える。
	・清掃活動等を通して、校内美化のために自ら考え主体的に行動ができる	・清掃指導を行った教員は100%で、目標を達成した。 ・校内美化活動に取り組んだ生徒は91.3%で、目標を達成した。 ・保護者は、94.7%が校舎内外の環境美化が「よく」または「ほぼ」行き届いていると評価し、目標を達成した。	・校内美化に対する自主的・主体的な態度や姿勢が向上していくよう指導に努める。 ・美化・保健委員によるゴミの分別や持ち帰り習慣等の啓発活動を行う。
	・保護者と学校との連携を充実させ、生徒が安心・安全で学校生活を送れる環境づくりをすすめる。	・9割以上の教職員が生徒の防災意識は答えており、防災に対する取り組みは十分できていると考えられる。	・次年度以降も、活動内容の見直しや新たな防災訓練の方法を検討する。
広報	・学校説明会等を通して、保護者・小中学生・地域へ積極的に本校の情報を発信する。	・学校説明会の内容に満足している参加者（保護者）の割合は93.0%で、目標の90%を上回った。	・今後も、オープンスクールや学校説明会を実施し、情報発信を行う。 ・学校ホームページでの情報発信も継続していく。
働き方改革	a　定時退庁日の完全履行 b　長期休業日の「学校閉庁日」を増加 c　「早出・遅出勤務」の導入 d　職員会議の時間短縮 e　年休の取得推進f　業務改善リーダーの提案に基づいたアクション等を積極的に図る。	・働き方改革の取組みの必要性については、ほとんどの保護者に理解されており、教職員の意識も昨年同様8割強の状況である。	・今後も、保護者の理解を得ながら、業務の精選や効率化を進め、生徒と向き合う時間の確保や、教職員の心身の健康維持に努めていく。
総合	・国際社会および地域社会に貢献する知徳体の調和のとれた人材を育成する。	・9割以上の生徒が充実した学校生活をおくっていると回答している一方で、能動的に学校や社会に関わろうとする意識は7割強に留まっている。	・学校生活の中で、より多くの生徒がリーダーとして活躍する場面の設定や、友人との意見交換や教職員からの助言等をとおして、知徳体の調和のとれた人材を育成に努める。